

1. 次の英文を和訳せよ。

Since the early 1990s, Japan has faced an ongoing challenge of promoting faster economic growth, with extended periods of very low interest rates limiting the use of monetary policy and a growing debt-GDP ratio raising caution with respect to tax cuts and increases in government spending. Though the recent worldwide recession called attention to the problems of conducting monetary policy in the presence of a zero lower bound on short-term government yields, the recent literature on the subject began with a focus on the longer-standing problem in Japan. As to fiscal policy, there remains uncertainty about the role it could have played in helping Japan to emerge from its protracted period of slow growth, with at least some arguing based on fiscal multiplier estimates that fiscal policy could have been effective in Japan, had it been aggressively pursued.

※注：zero lower bound：ゼロ金利下限、protracted: 長期化した

(Alan J. Auerbach and Yuriy Gorodnichenko, 2014, Fiscal Multipliers in Japan, *NBER Working Paper* No. 19911, p.1.)

2. ある1つの財の市場における需要曲線が

$$p=16-X$$

ただし、 $p$ ：価格、 $X$ ：需要量

と表されるとする。いま、この財の市場が複占市場となっており、企業Aと企業Bが対等な立場で同じ財を生産しているとする。企業Aの費用関数が

$$c_A=5y_A$$

ただし、 $c$ ：費用、 $y$ ：生産量

と表され、企業Bの費用関数が、

$$c_B=6y_B$$

と表されるとする。このとき、下記の(1)~(4)について答えよ。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。解答は、整数でなくてよいが、分数の場合はできるだけ既約分数で答えること。

- (1) 企業Aの反応関数を求めよ（図示する必要はない）。
- (2) 企業Bの反応関数を求めよ（図示する必要はない）。
- (3) この複占市場のクールノー均衡における市場価格、企業Aの生産量、企業Bの生産量はいくらかを答えよ。
- (4) (3)の均衡において、両企業の利潤はそれぞれいくらかを答えよ。

3. 次のマクロ経済学に関する(1)~(7)の問いについて答えよ。

- (1) 均衡予算乗数の定理とは何か、まずは定理の内容だけ答えよ。
- (2) 均衡予算乗数の定理はなぜ成り立つかを示せ。
- (3) 政府支出乗数が均衡予算乗数と異なることがある。それはなぜか答えよ。
- (4) フィリップス曲線とは何か、どの変数がどのような関係にあるかを答えよ。
- (5) 自然失業率とは何か答えよ。
- (6) 自然失業率仮説とは何か答えよ。
- (7) 自然失業率仮説と(4)のフィリップス曲線との関係はどうなっているか答えよ。

4. <この問題は、時間に余裕がある場合に限り解答してもよい；解答しないからといって減点にはしない>

ある閉鎖経済（輸出入がない経済）において、消費関数が

$$C=295+0.75(Y-T)$$

ただし、C: 民間最終消費支出、Y: GDP、T: 政府が課す租税

と表され、投資関数が、

$$I=200-r$$

ただし、I: 投資（固定資本形成）、r: 利率（単位：%）

と表され、貨幣需要関数が

$$L=Y-2r$$

ただし、L: 実質貨幣需要

と表されるとする。中央銀行は、名目貨幣供給を（ちょうど貨幣需要と等しくなるように）2180だけ行ったとする。物価水準は1とする。また、政府は、経済主体に租税（T）を課して、政府支出（G）を行う（詳細は各問にて詳述）。このとき、下記の(1)~(3)について答えよ。

(1) 政府支出（G）を含むIS曲線とLM曲線の式を、「 $r=\dots$ 」の形になるようにそれぞれ示せ（式だけ示せばよく、図示する必要はない）。

(2) 政府が所得税のみを、

$$T=Y/3$$

となるように課税して、政府支出を599だけ行ったとする。このとき、マクロ経済において実現するGDPの水準はいくらになるかを答えよ。

(3) (2)の状況で、政府の租税収入はいくらになるか答えよ。そして、この状況で政府の財政収支（ $T-G$ ）はどうなるかを答えよ。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。解答は、整数でなくてよいが、分数の場合はできるだけ既約分数で答えること。